

令和6年度 第2回学校評議員会 会議録

○日 時 令和7年2月19日(水) 10:30～12:20

○会 場 田名部高等学校 会議室

○出席者 学校評議員等(3名)… A: 全日制の保護者代表 B: 地域住民の代表
C: 教育関係の識者 D: 学校関係者評価委員
学校側(8名)… 校長、全日制教頭(司会)、定時制教頭、事務長、教務部主任、
生徒指導保健部主任、進路指導部副主任、教務部員(記録)

- 次 第
- 1 開 会
 - 2 校長あいさつ
 - 3 学校教育計画について
 - 4 全日制について
 - 5 定時制について
 - 6 その他
 - 7 質疑・意見交換
 - 8 各委員から
 - 9 閉会

○会議録

1 開会 ※省略

2 校長あいさつ

本日はお越しいただき感謝申し上げます。まだ年度は終わっておらず、今が一番忙しい時期だが、これまで取り組んできたことの検証もできる時期になった。外部の方に我々の取り組みを評価いただけることは本当に貴重な機会だと思っている。前回、様々なご意見をいただいたときも、すぐに教職員にフィードバックした。今回も忌憚のないご意見をよろしくお願いしたい。

3 学校教育計画について

【校長】

全日制においては、取り組みの重点二つについて、先生方が授業を通じて精一杯やってくれた。「主体的に学ぶ姿勢と探究心」については、授業や部活動での取り組みや進学実績の向上だけでなく、課外活動にも積極的にチャレンジしている。今年度は県教委主催の「海外フィールドワークチャレンジ」という事業に応募したところ2年生と1年生の生徒6名が選考を通過し、12月に7泊8日でイギリスに行き、短命県返上に向けた塩分摂取量の減少に関する探究活動を行った。また、県教委主催の「海外研修プログラム事業」にも2年生1名、1年生1名が応募したところ両名とも通過し、台湾を訪問して文化交流することで異文化理解を深めた。

「総合的な探究の時間」における探究活動では、生徒たちが自分の掲げた探究テーマに精一杯取り組んでいる。世界の食糧難の解決のために昆虫食を活用できないか探究しているグループ

では、食用として利用できる昆虫を購入し、実際に調理して食べることで実用性を考察していた。他にも、髪を傷めないために効果的ないシャンプーを研究するために、複数のシャンプーで洗髪して比較してみた生徒や、学習効果を高めるために生徒が活用できる校内の休憩場所を考察してみた生徒など、様々な活動に取り組んでいた。

定時制においては、生徒の自己肯定感を高めること、ならびに自らの考えや感情を言語化する力を養うことに取り組んできた。自己肯定感については他者からの評価を通して形成されるものであると考え、外部講師を招いた学習活動や、大学見学を実施し、新たな気づきを得るよう工夫した。言語化する力の形成については、生徒との面談を繰り返した。教頭および私が中心となり3年生、4年生を対象に面談を実施するとともに、SSWにも加わっていただき、生徒が自分の言葉で語ることに取り組んだ。

また、反対意見もあったが「定時制の生徒たちを修学旅行に行かせたい」という教頭の意見のもとに計画を練り、次年度に実現する運びとなった。

全日制、定時制とも、これらの取り組みのために「教員はこれをして下さい」「校長はこれをします」ということを年度はじめに掲げてきたが、教員には精一杯やっていただいたと思う。プライベートの時間も費やして教材研究をしたという先生もいた。部活動も業務もこれ以上ないというくらい頑張ってもらった。校長としては年3回全ての先生方と教員面談を行い、授業も可能な範囲で見まわった。また、物理的に働きやすい職場をつくるために、事務部にお願いして多目的室の机と椅子を全て新しいものに入れ替えたり、全ての職員室にコピー機を設置してもらった。荷物置き場になっていた教室が一ヶ所あったが、整理整頓をして職員や生徒が使えるようにするなど、様々な改革を進めた。

本校では360度評価（360度評価：被評価者に対して、その周囲の上司や部下、同僚といった立場の違う複数の人物が評価する評価手法の一つ）の一環として、校長と教員が互いに評価するということを実践した。これまで進めてきた働き方改革や物理的な整備、ペーパーレス化に対して一部の先生方からは、業務の軽減がなされているという感覚は無く「むしろ業務が増えているように感じる」「改善を指摘された分掌や担当者が改善をするために相当な労力を払い多忙化している」「その場で思いついた突発的な発言や先が見えない業務命令は控えて欲しい」、「様々な場面で校長の発言により業務量が増えて先生方が困惑し疲れている」というご意見もあった。私自身反省するところがある。自分の中では筋が通っているつもりでも、説明が不足していたり、一部の先生だけに説明していて他の先生には伝わっていないことがあり、丁寧な説明や間を置く必要があったと反省し、次に繋げたいと思った。教員こそが学校の魅力であり価値である。これは私の信念である。先生方がいきいきとしている学校を創りたいと思い精一杯走ってきたが、たくさんの反省もある。様々な方からのご意見を聞けたらと思っている。

4 全日制について

ア 分掌評価

【教務部主任】

各申し合わせ事項や規程の見直しについて、昨年度から今年度にかけて本校の生徒の実情に合わせて行った。決して生徒が有利になるというわけではなく、生徒の実情をきちんと鑑みただけで検討をしてきた。これからも、生徒の学習機会や学習時間の確保などを考慮して年間行事を考えるなど、生徒の実情を踏まえて検討していくことが多くなっていくと思う。その際には、個人間で解釈の差がでないように、誰が見てもわかりやすいように規程を整えていきたい。

【生徒指導保健部主任】

本校では今年度の中学校2年生から制服を新しくすることを計画し、その方向性を制服検討委員会で話し合っている。ジェンダーの平等を考慮して女子生徒がスカートとパンツを選べる形をつくることや、夏服にポロシャツを導入することを検討している。校則の見直しも毎年行っており、生徒の意見を吸い上げながら検討している。

いじめ、事故、非行の未然防止についても取り組んでいるが、事故・非行が何件かあった。一部の生徒には物事を深く考えられない状況もあり、生徒の心に響くような指導をしていかなければならない。最近では、SNSによるトラブルや誹謗中傷も見受けられる。顔が見えない分、活字だけが一人歩きしているところがあり、SNSの活用法について指導していく必要がある。

心身の健康管理について、保健室を利用する生徒が非常に増えてきている。生徒たちには精神的・肉体的な疲労や様々な悩みがある。生徒から悩みを聞くことができれば良いが、教員がいち早く気づいて家庭と連携し、大きな事態に発展しないよう進めていきたい。

【進路指導部副主任】

進路指導部通信について、評価項目「1.進路選択に関わる情報の収集と発信」に「②発行頻度が下がった」とあるが、1年間で5号まで発行している。進路主任から勉強の仕方を提示したり、通信の裏面に担当者を毎回変えて勉強に関するアドバイスを取り上げることで、生徒のモチベーションを高めるよう工夫している。

進学や就職など進路選択が多様である。そのため、講習や模試の方針について、年次・分掌と意見交換をしながら決定していく。

進路決定状況について、現段階で3年次進路決定者は計93名になり、在籍生徒数の約半分である。国公立大学はこれから前期試験が行われる。公務員と就職希望者は全員決定し、対策が実を結んだと考えている。

ボランティア活動は進路指導部が窓口となり、クラスルームなどオンラインを活用して参加者を募り活動している。

【事務長】

令和5年度まで改修工事が行われてきたため、今年度は大きな改修工事等はなかった。財務事務に関しては、校長の経営方針に沿って物品の更新などができた。

田名部高校は本校舎以外に、大畑高校の校舎を管理している。今後の活用の予定はないが、電気設備に低濃度のPCBが入っているところがあり、そこに関する設備は現在失効しているところである。来年度、これは処分予定である。

イ 第1回・第2回学校評価アンケート＜生徒・保護者・教員＞

【全日制教頭】

（ア）教職員の評価

教職員対象の「12. 規律ある生活が送られるように生徒指導を行っている」という項目で、「そう思わない」と感じている教職員が5.9%になっている。生徒は多様化しており、廊下ですれ違う際に挨拶をする生徒がいる一方、こちらから声をかけても返答が返ってこない生徒もいる。

私は廊下で声をかけることが多いが、生徒は様々悩みを持っているようである。日々の学校生活の中で、子どもたちに寄り添った指導をしていかなければならないと思っている。

(イ) 生徒からの評価

生徒対象の評価のうち「11. 田名部高校の施設・設備は学習環境の面で満足できるものである」について、1 回目の評価より 2 回目の評価の方が数値的に少し低くなっている。しかし、先ほど校長が説明したように、多目的室の机と椅子が軽く機能的なものに更新されている。また、生徒がペットボトルを捨てるときにラベルやキャップを外した後、洗って捨てられるように水飲み場の周りにゴミ箱を集めたりするなど、様々な取り組みを行っている。

(ウ) 保護者からの評価

保護者対象の評価について、「9. 田名部高校に入学させてよかったと思っている」の項目で「そうおもわない」と回答した保護者もいるが、99%は満足してくれている。県教委で中学生に実施した「第2回進路志望調査」における高校志願者数を見ても、下北地区は募集定員を満たすことができない学校がほとんどで、本校もその一つである。以前と違い本校の受検生の進路志望は大学進学、専門学校進学、就職と多様化してきている。また、精神的にタフでない生徒のケアも重要になり、求められることの幅が広がってきている。割合は少ないが、「田名部高校に入れば良かった」という保護者もいるのだということを、我々職員は心にとどめる必要があると感じている。

1 回目も 2 回目も総じて生徒、保護者から前向きな評価をいただけていることが教員としても励みになる。

4 定時制について ※定時制教頭が全て説明

ア 分掌評価

【教務部】

基礎的な学力を身につけさせるため、ユニバーサルデザインによる学習を通して、壁を取り払っていきたいと考えている。視覚的に教室が見やすくなるよう工夫した。また、勉強以外にも交流の場を確保して、生徒を学校に引き寄せる環境をつくるための集い「ラウエカフェ」を年に3回開いた。

【生徒指導保健部】

毎日、30 分に1回は生徒が保健室を利用しており、養護教諭が面談などで対応している状況がある。症状がなくても様々なことを伝えに生徒は来室するが、それを受け入れることによって生徒にとって安心できる環境になっている。養護教諭によると「なるべく生徒自身の言葉で話をさせるよう1年間やってきた。」とのことである。先ほど校長の説明にもあった「言語化させる」ということに力を入れており、今のところ自分から話しかけるということができており、成長しているのだと感じる。

【進路指導部】

ジョブカフェ、ハローワーク、地域若者サポートステーション、むつ市子育て支援課などと連携して様々なことに取り組んだ。

今年初めて定時制から弘前大学に合格した生徒がいる。現在、3年生で今年卒業予定の生徒である。彼は昨年から大学進学を決めて自分で勉強をし、成績を上げて合格できた。生徒にとっても保護者にとっても「定時制にも可能性がある」ということを認識してもらうために、非常に大きな成果になったと考えている。

【渉外部】

P T Aと一緒に学校行事を行っている。特に、文化祭や体育祭における活動は生徒と保護者、生徒間の親睦を深めていくことに繋がっている。

【図書探究部】

生徒の能力を発揮する機会を確保するため、各種コンテストへの参加を奨励している。今年は青森県高校生生活体験発表会において第3位を受賞した。また、来年度の定通総体のスローガン募集において最優秀賞を獲得するなど、優れた資質を持つ生徒がいることが確認された。

イ 学校評価アンケート結果

(ア) 教職員の評価

学校運営について職員会議は情報交換、共通理解、課題検討において有効に機能している。情報交換は生徒理解に繋がっており、普段から必要なツールとしての役割を果たしている。また、生徒理解のために先生方が普段から思っていることを、教職員内で伝え合うことを大切にしている。

「9. ①学校と家庭の関係を密にし、生徒一人一人の家庭環境の理解に努めている」について、様々な生徒に対応するにあたり、保護者との連携を大切にしている。

生徒自身が自分の言葉できちんと発言することを目標に、教員がさまざまな活動に取り組ませている状況である。

昨年に比べ、やや少し問題行動は増えたが、生徒と保護者、外部機関と連携を取り、生徒に足りなかった部分を教員が指導することで対応してきた。

教育活動では、多様な生徒が入学しており、学力の差が大きいのが実情である。1年生が30名程入ってきたが、高校の授業についていくのが困難な生徒もいる。その生徒に対してどのような指導ができるかが課題になっている。地域から協力をいただき、様々なところへ生徒と一緒に足を運び経験をさせるなど、現在もやり方を模索しているところである。

行事に際して市役所など地域社会に協力してもらっている。また、「かさい先輩」という交流の場で社会経験についてのOBの話を聞く機会を設けている。

(イ) 生徒からの評価

「2. あなたは授業の内容についてわかりますか」について、80%の生徒は「だいたいわかる」と回答しているが、「わからない」と回答している生徒が18%と昨年に比べて増えている。

「6. 先生方はわかりやすい授業を行っている」について、肯定的な回答が90%あり、先生方が日々創意工夫している現れであると考えられる。

「8. あなたは今の学校で何を大切にしているか」について、多かったのが休まないということだった。今年の生徒の出席率は1月時点で91%になる。8割近い生徒が小・中学校で不登校だったが、気持ちを切り替えて頑張ろうとしている。

「12. 卒業についてどのように考えているのか」について、前段階でとったアンケートで、卒業することを第一に考えていることがわかった。我々も一層しっかりとサポートしていかなければならない。

(ウ) 保護者からの評価

「授業についてわかりやすい授業をしていますか」について、生徒からの評価と保護者からの評価に若干隔たりがあり、保護者からの肯定的回答が 69%と、生徒の 93%より低くなっている。

ウ 進路先一覧

進学希望者もいる現状を踏まえて、学力をつけていく必要がある。

就職希望者については、3社落ちても頑張り続けている生徒もいる。勉強だけでなく主体的に生きていく力を在学中につけていかないと、入社試験や大学入試等で結果を出せない危険性がある。社会に出るための関門を突破できるような逞しい精神力を、学校生活を通して育てていきたい。

6 その他

【全日制教頭】

「学校通信」をリニューアルし、今年度からはカラー印刷にした。「ふれあい」というタイトルも今の田名部高校に求められている要素として、この暖かい言葉に決定した。

7 質疑・意見交換

○A：学校評議員

定時制の生徒の大学受験の話を知ると、生徒が「こうしたい」という内容に対して教員が親身になって丁寧に接してくれていると感じた。

○C：学校評議員

生徒に対して細かく指導されていると感じた。多様な生徒が入学している中で、先生方の多忙化などが生じてくる。校長が示す方針をもとに、今必要なことに組織で取り組もうとしていると思う。人員が限られた中で生徒のこと、日中の業務のことを消化していかなければならないことが課題になると感じる。そのためには人を増やさなければならないが難しいので、分掌間で連携していくことが大切である。学校として必要な仕事は増えていると思うが、必要ではないものは思い切って捨てていくことが必要になると思う。新しくやらなければならないことはこれからも増えるため、良い方向性を考えていく必要がある。

○D：学校関係者評価委員

「こち海老」の資料に記載してある、入学生に対する「初期指導」についての具体的な指導内容や、指導によって子どもたちはどのように変化しているのかが知りたい。

- （進路指導部副主任）初期指導は、オリエンテーションを開いたり、人間関係を確認するための学年間交流を行ったり、学校生活を送るうえで必要なことを進路指導部や生徒指導保健部から確認したりするものになる。
- （生徒指導保健部主任）初期指導は進路関係と捉えられがちだが、学校生活全般について進路指導、生徒指導も含めて確認する。また、授業ノートの取り方や勉強の仕方なども教科で指導している。進路では過去に受験した学校やその取り組みの紹介などを行っている。さらに、学校生活については、スマホや自動販売機、学食の使い方など、中学校のルールとは変わってくるものの確認も含め、3日間で指導している。

○E：学校関係者評価委員

「こち海老」には国数英の授業と書いてあるが、他教科も同様に行うのか。

- （生徒指導保健部主任）国数英に合わせて、他教科も初めの授業に確認を行っている。ここでは三教科を重点的に指導している。

○C：学校評議員

ギガスクール事務局は学校の組織の中でどのような位置づけになっているのか。

- （全日制教頭）ギガスクール事務局は、一人一台タブレットとなったことを受け、これまでは管理を教務が行っていたが、ICTに特化した分掌が必要となったためにできた。当初は機材の整理をすることがメインとなっていたが、今では先生方がICTを活用できるようにサポートしている。登校が難しい生徒へのオンライン授業の段取りなども行っている。
- （校長）分掌の位置づけとして設置しており、運営委員会にも出席している。

8 各委員から

○A：学校評議員

学校の生徒に対する姿勢にととても感心している。PTAとの連携で「T」の位置づけである先生方にも行事に積極的に参加いただければと思っている。方針としては今後も同様に進めて欲しい。

○B：学校評議員

学校評価の教員用を見たときに、先生方の評価が厳しめだと感じた。今日の話を聞いて定時制の熱心な取り組みが伝わってきた。アンケートも項目や点数を見た中で一般企業と比べても、きちんと分析された内容であると感じた。定時制を卒業した私の同級生も現在きちんと働いているし、全日制と定時制で区別することなく教育されているところに感心した。義務教育ではない中で生徒に向き合っていることが、地域住民や保護者が安心できる場所である。この結果を保護者の方が見る状態がこれからも必要だと思うため、引き続き取り組んで欲しい。

C：学校評議員

学校評価の保護者からのコメントに掲載している学校への感謝の言葉は、全体で見ると量的には少ないが、保護者の9割近い方が感謝していると思う。各先生方は教科指導の他にも生活指導などにあたられており、本当にご苦労されていると思う。批判的内容を見たときに士気が下がっ

てしまうだろうが、先生方はよくやってくれているので、気にせずこの先の学校運営にあたってもらいたい。

D：学校関係者評価委員

学校評価が年に2回行われるのは多忙化につながるのではないかと思う。ただ、変化がみられるというのは非常に大事なことで、持ち越してしまうと異動で人が代わったときに学校評価は比べられないので、時期的なものはあるが工夫して2回やっていった方がいいと思う。

また、保護者アンケートについて、定時制は全ての保護者、全日制もある程度の保護者が回答しているので、良い形で分析できると思う。その中でも「田名部高校に入れて良かった」の項目がどの項目に比べても一番説得力のある項目になる。生徒も保護者と同様に感じられるよう指導にあたることが良いのではないかと思った。生徒指導に関係するところで、学習規律やルールについて、子どもたちに決めさせるということも一つの方法である。ただ規律を押しつけるのではなく、そこに自分の場所があると思える状態や肯定感が上がる環境が存在することが、授業改善にも繋がる。田名部中学校からも多くの生徒が入学しているので、何かあったら連携をとりながらやらせていただきたい。「ふれあい」の資料を見たときに、校長先生の文章が自然体で書かれていて大事なことが訴えられているのが良いと感じた。このような方法で地域や保護者に発信していくことは非常に大事なことだと思う。

〈12：25 閉会〉